

助成活動実績報告書

企画名	～ボクらの未来のために～持続可能な社会の扉を開く映画会
団体名	おかやまエコマインドネットワーク

① 活動の目的について

当団体が取り組んできたテーマである「食とエネルギーを考える」の集大成として、持続可能な社会を築ききっかけとしてより多くの人に働きかけることができる企画として映画会に取り組んだ。“エネルギー”ということでは風化しつつある東日本大震災の福島第一原発の事故後を追ったドキュメンタリー映画「小さき声のカノン～選択する人々」を通して将来の子どもたちに幸せな未来をつなげることのできるエネルギーとは、について考える機会としたい。また、“食”ということでは山形県の在来作物と種を守り継ぐ人々のドキュメンタリー映画「よみがえりのレシピ」を通して地産地消やスローフードが地元の農業を守り、食のグローバル化の中で伝統野菜をはじめとして子どもたちを含めた将来へつなげることの大切さに気づきの機会としたい。これらの映画を鑑賞することで、一人ひとりが持続可能な食であったりエネルギーであったりを選択するという行動につながることを期待する。

② 内容について

日時：2015年1月31日（土）10時～20時30分

場所：岡山市シティミュージアム 4階（岡山市北区駅元町15）

内容：「小さき声のカノン～選択する人々」監督：鎌仲ひとみ 2回上映

「よみがえりのレシピ」監督：渡辺智史 2回上映

鎌仲ひとみ監督トーク @1時間×2回（小さき声のカノン終了後）

参加者：（小さき声のカノン）約180名（よみがえりのレシピ）約150名

この映画を上映するにあたり多団体との協力体制をとり、当団体を中心とした実行委員会を組織し広報活動を展開した。後援団体は岡山市・倉敷市・瀬戸内市・岡山ESD推進協議会 また、協力団体は県下12団体で団体名は別紙チラシを参照のこと。広報手段としてチラシ、新聞、ミニコミ誌への掲載、ラジオ、SNS等を使用した。プレ企画として「伝統野菜を暮らしの中に一育てる 食べる 伝える」をテーマに岡山商科大学経営学部教授の岸田芳朗先生による「岡山から食と農の未来を考える」基調講演、その後合同会社 cotan 代表の近藤英和さん、農業生産法人（株）ワッカファームの佐々木竜也さんを含めたパネルディスカッションを実施した。

③ この活動によって達成された成果

「食とエネルギー」という大きなテーマで活動し、その集大成として取り組んできましたが、団体としてかかわりのあったすべての団体、人とのつながりを大切にして多くの協力がありました。小さな組織ですが協力していただいた皆さんの繋がり力、絆を感じました。

「エネルギー」については福島第一原発事故のその後の様子を映画でみることによって今まで知らなかった問題や当事者にしかわからない心情や不安に共感しました。除染の現状、保養の現状などを知ることが出来、岡山の地でできる事の提案が監督からあったことから、今まで関心の薄くなりつつあったエネルギーについて再考できる機会となった。

「食」については、アンケートからスーパーで安価なものを求めている行動を生産者を考える行動へ、また地産地消へと気づきがうまれたり、家庭菜園がしたくなったとの意見がありました。種について考えも及ばなかった人が種に興味をもつ機会にもなりました。それぞれに持続可能な社会を作っていくために、自分自身や子どもたちの未来のために、何をどのように選んでいくのか少しでも示していけたと思います。

④ 今後の計画・展望について

今回の企画をとおして、食べ物や家庭菜園を含めた農業に関心を寄せた人が多く感じた。アンケートからも子どもや若い世代の食に対する意識の低さを危惧する意見があったことから、岸田芳朗先生の提唱される「自育自食 地食地育 旬育旬食」について講演やワークショップ等を企画していきたい。今後活動するにあたり今までのつながりや絆を大切にしてウィンウィンの関係で広げて行きたいと思います。

⑤ 写真等参考資料添付



監督トーク↑



会場の様子↑

